



○月×日(月) 14:19

裏路地

僕は路地である人物を待っていた。

昼どきを過ぎ、その人物はいつものように  
お気に入りのレストランで食事を終え…

そして、比較的人通りの少ないこの路地を  
今頃に通るはずである。

僕の読み通り、その人物は現れた。

その人物とは……ラブラブという名の女性。

本名は相場愛美。動画配信者ツェントル・クリミナルの助手であり、パートナー！。

小さく可愛らしい外見とは裏腹の21歳。そして……恐らくだが処女。

当然、僕とは今までの人生でただの一度も接点も何も無い。

僕は勇気をこらして彼女に声をかけた。

「あの…ラブラブさんですか？」

「えっ？」

彼女は急に名前を呼ばれて、キョトンとした顔で僕を見た。

「実はお願いがあるんですけど…」

○月×日(月) 14:27

ホテル



「勢いよく腰を降ろして…  
さすがに痛かったんじゃない？  
初めてなのに無理しなくても」

「あら♡たっでこの方が  
あなたも気持ちいいでしょっ？  
処女オマンコを引き裂く感触…♡」

「愛する人のためですもの♡  
処女くらい捧げて…当たり前っ♡  
通過儀礼に過ぎませんわ♡」

ハッ♡



アッ♡

アッ♡

ギク♡

ギク♡



わずか8分前まで僕とは初対面だったはずの彼女が、今は笑顔で僕の上に跨がり、21年間守ってきた処女を捧げた。

…そう、僕は彼女に催眠をかけたのだ。目を合わせて手を叩いた瞬間から僕はラブラバにとってこの世の誰よりも愛する人となった。

これが僕の計画。彼女をたまたまジエントル・クリミナルの動画で見た時からずっと恋い焦がれていた…。

彼女を僕のものに出来るならどんな手段だって使うさ…！

「そうだった...そうだよね  
ラブラブ。僕たちは愛し合う  
恋人同士だから...」

「えっ♡♡じゃあどうしよう...♡♡  
動き...ますから♡♡ん♡♡ふっ♡  
あっ♡♡♡♡」

処女を失ったばかりの彼女が  
僕の上に跨がり、  
自ら積極的に腰を振る。



「んはっ♡あはっ♡感じる…  
おちんちんの…感触っ♡ふっ♡  
これがセックスなのねっ♡」

催眠のせいもあってか、痛みは  
さほどでもないようだ。しかし僕の  
方は大変だ。ただでさえ初物な上…

身長が111cmしかない彼女の  
膣内っ！さらに「フルセットで  
余計に圧迫されて…っ！

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ



「凄い…よっーラブラバの  
膣内…っー信じられない  
くらゐ締め付けてきてっ…」

おんん

「あっ、ほっ♥私も…っ♥こんな  
おっきいおちんちん…っ♥  
動く度に内蔵が圧迫される感じ♥」

おんん

おんん

「んっ♥はっ♥ちっ♥ちっ♥  
苦しいはず…なのっ♥セックスって  
こんな気持ちいいのっ♥」

おんん

おんん

「んああああっっっ♥そんな  
力いっぱい…っ♥おっぱい  
握り締められたっっ♥♥」

小さな身体には不釣り合い過ぎる  
ラブラバの爆乳を力任せに  
握りしめ、その感触を味わう。

「うは…っ、柔らかか…っ！まるで  
つきたてのお餅みたい…っ！  
こんな爆乳が…もう僕のものっ！」











「んおっ♡ほっ♡おおおっ♡  
射精で…ますっ♡  
精子…っ♡いっぱい…っ♡」

膣内で射精をくり返す度に  
僕の上でその小さな身体を  
震わせ、絶頂に達するラブラブ。

ただでさえちくわの穴くらい  
狭い膣穴がその度に締まり、  
強烈な快感を与えてくれる。



「はぁ…っ、はぁ…っ…っ♡素敵…っ♡  
あなたの暖かい精液が今…  
私の膣内いっぱい…っ♡♡」

嬉しそうに微笑む彼女の笑顔が  
僕の心にチクリと刺さる。催眠を  
かけられている事も彼女は知らずに…

だから僕は決意して、ある事を  
彼女にお願いした。  
「ラブラブバ…僕を『愛』して欲しい」





彼女の持つ『個性』は『愛』。自分が  
愛する者に愛を告白する事で、その対象を  
超強化できる能力。

僕は今、彼女に催眠をかけてラブラブの  
愛を一心に受けている。今、僕が『愛』を  
受ければその催眠が超強化される。

僕の催眠効果は対象一人に限り、その  
効果は永続する。その催眠が超強化される  
事で推定される結果は…

「僕自身も催眠の影響を受け…つまり  
誰も解除出来なくなる。ラブラブと僕は  
永遠に互いを愛し合う呪いに嵌まる」  
ループ

「……それでもいいかい？  
ラブラブ。いや…愛美。  
今、君に起こっている事だよ」

僕は敢えて、彼女に全てを話した。  
催眠がかかったままの状態であっても  
状況は十分理解できるはずだ。

その上で…彼女は言った。  
「むしろ…素敵な事じゃないか？  
偽りの愛が本物に変わるのだから…」



「あなたを愛します…っ♡♡♡  
一生…この身に誓って…っ♡♡♡  
永遠にならうっ♡♡♡」

その瞬間、彼女の『愛』が発動した。  
僕の催眠が超強化され、僕の意識が  
偽りに上書きされてらん…！

その最中に僕は呟いた。  
「ありがとう…愛美…っ、そして  
じゅんね…っ！」

ハッ

ア

ア

ア

♡

「……………」  
あれ…えっと…今…何  
してたっけ…あっ！愛美…」

「あーっ！いけない…私どいた  
事が…いつの間…♡うふふっ♡  
Hに夢中になっただからかっ？」

「僕こそっ！大切な時間の最中に  
ぼーっとするなんて…  
愛美に本当に失礼だよねっ！」

アハハ

あーっ

えっ

アハハ

アハハ



「んはっ♡あっ、はっ♡んあっ♡  
ぞっぞっわっ♡今は大事な♡  
ん♡愛の時間…ぞっぞっ♡」

さっきまでとても大事な話を  
していたような気がするけど、もう  
思い出せない。でも今はそんな事より…

「全くだよ…っ！ああっ、愛美っ！  
愛してるよっ！はあっ！  
一生離れないからねっ！」



「当たり前前ですわっ♡私だっで…  
一生あなたと一緒にっ♡♡♡  
んほっ♡あっ♡♡♡」

おん

「うんっ、うんっ！子供だって  
たうくさん作るうっ！はあっ！  
はあっ！っ！っ！っ！産ませてもらっ」

おん

おん

おん

「じのっからおっぱいで…っ！  
いっぱい赤ちゃんのミルク作って！  
それで僕も飲む…っ！」

おん



「んあああっ♡♡♡はいっ♡♡♡  
あなたが望んだ数だけ産みます♡  
私とあなたの赤ちさん♡♡♡」

「10人でも20人でも…♡♡♡  
絶対に育て上げてみせますわ♡  
ああっ♡だからっ♡♡♡」

「うん…っ！絶対孕ませてあげる！  
この…まるで処女失ったばかりの  
ようなキツキツオマンコにっ！」



「あっ、あっ、あっ♡♡♡イクっ♡  
あぁあっ♡♡♡ダメっ♡♡♡  
もっ♡♡♡イクっ♡♡♡ちゅっ♡♡♡」

「僕もイクよう！愛美っ！膈内で  
射精してっで言っでっ！孕ませて  
くださいっでー！」

「膈内で射精してっ♡愛美の子宮に  
あなたの赤ちゃん汁っ♡♡ありっだけ  
注ぎ込んでっ♡孕ませっでっ♡♡」





「んおおお……っ♡♡♡おあっ♡♡  
ほっ♡♡射精してっ♡♡♡♡  
この感覚……っ♡♡♡」

「病みつきになんて……っ♡♡♡あっ♡♡  
ほっ♡子宮の中……っ♡♡♡  
いっせになんてっ♡♡おあっ……っ♡♡」

「僕も……っ！く……っ！……っ！……っ！  
愛美の膣内に射精するのがこんなに  
気持ちいいなんて……っ！」



「これならきつと…いえ、  
確実に赤ちゃん…っ♡妊娠  
したと思いますわ…♡♡」

「はあ…っ、はあ…っ！愛美と…  
赤ちゃんを作るなんて…なんだか  
さっきまでは「夢」だった気がするよ」

「いっくらっ♡愛おむる者同士の  
そんな事…」  
「おたけにっ♡  
愛っ♡おたけ…おたけ♡♡」



○月×日(月) 15:56

その後、ラブラバごと愛美はかつての  
パートナーのシエントル・クリミナルに

「おようなら」の一言だけ告げた後、姿を消した。

彼は助手の愛美を探し回ったが  
結局、見つけることは出来なかった。



## □ラブラブ(相場 愛美)

身長:111cm

体重:32kg(乳重14kg含む)

B116(P)/W42/H61

特技:ハッキング・動画編集

好きなもの:ジェントル♡

あの人♡/毎日のセックス♡

動画を見てくれるリスナー♡

### ☆解説

動画配信者ジェントル・クリミナルの助手兼パートナー。学生時代の  
苦い思い出がきっかけで引きこもり生活を送っていたところ、彼を  
動画で知り、ジェントルに盲従するようになる。

奇しくも同じ理由で「彼」がラブラブを知り、引きこもり同然の生活を  
送っていた彼が彼女を自分のものにしたいと願い、催眠能力を得た  
事で彼女の人生は大きく変わる事になった。

彼女の個性「愛」は本来、一日一回かつ短時間しか使用できないが、元々  
永続効果のある「彼」の催眠が超強化された事により、彼自身も意識改変  
され、催眠を解除する者がいなくなる、ある意味最悪の相性であった。

「相思相愛」となってからは以前のスキルを活かし、アダルトチャンネル  
を開設。彼とのセックスを楽しみながら、生活費を稼ぐ事が可能になり  
以前よりも豊かな生活が送れるようになった。















































